

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	ふくおか農業塾事業	所管課名	農林水産局	農林部	農業振興課
事業開始年度	平成21年度	基本計画	策コード	主6-4-1	再
根拠法令	なし	分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
行政計画上の位置づけ	なし	施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 農業従事者の高齢化や、後継者不足を背景に、農業生産が行われない耕作放棄地が増加しており、耕作を放棄され数年経つと、農地の原型を失うほどに荒れてしまったため、農地を管理していく対策が必要であった。	事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
実施成果指標					

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 新規就農を目指す市民	対象をどのような状態にしたいのか 市内の休耕地等を活用し、小規模の新規就農者となる。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

平成25年7月より開始した第3期を継続して実施し、平成27年3月をもって修了した。
第3期の受講者数は開講時15名、そのうち修了者が12名。修了後に、農地の利用権設定を行った小規模新規就農者は9名であった。
JAファーム福岡にて、以下の講座を実施した。

<講座内容>

- ・農業の基礎知識(栽培技術、肥料・農薬の使用など)
- ・農業用機械の操作(トラクター、耕運機、草刈機)
- ・土づくり、栽培管理、収穫など
- ・農家での見学、作業体験など
- ・直売所、イベントでの販売実習(出荷調整作業、消費者ニーズの把握等)

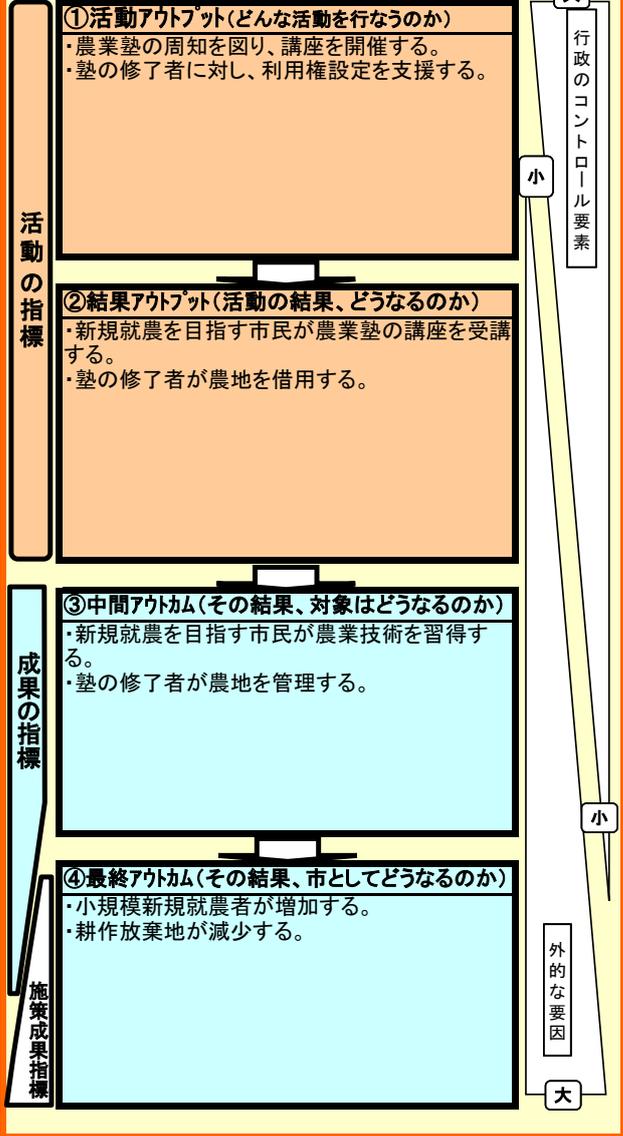
事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	700	700	500
	歳入	0	0	0
	特定財源	0	0	0
	一般財源	700	700	500

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	農業塾の受講者数	目標	20	15	10	28年度
		実績	15	12		
		達成率	75.0%	80.0%	10	
	農業塾の開催日数	目標	30	38	20	28年度
実績		30	38			
達成率		100.0%	100.0%	20		
成果の指標	小規模新規就農者数	目標	0	12	0	28年度
		実績	0	9		
		達成率		75.0%	10	
	就農者の総耕作面積(m ²)	目標	0	20,000	0	28年度
実績		0	9,601			
達成率			48.0%	10,000		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	農業インターンシップ事業	所管課名	農林水産局	農林部	農業振興課
事業開始年度	平成22年度	施策コード	主 6-4-1	再	
根拠法令	なし	分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
行政計画上の位置づけ	なし	施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 農業従事者の高齢化や後継者不足が進む中、農業外からの新規参入を図るため、農業後継者から直接指導を受ける形での農業研修を実施することで就農を支援し、農業の担い手を確保・育成するため。	事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
【事業概要】		施策成果指標			

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 就農希望者	対象をどのような状態にしたいのか 本市において新規就農する。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

説明会、面接会を実施後、研修生5名を決定し研修を開始した。
 研修期間: H26. 6~H27. 3
 研修先: 東区(1名)西区・早良区(4名)
 期間: 30日~60日程度
 講義4回(先進農家の視察、農業、農業経営について等)

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	923	1,431	1,320
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	923	1,431	1,320

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	研修生数	目標	5	5	4	年度
		実績	4	5		
		達成率	80.0%	100.0%		
成果の指標	研修生から新規就農へ結び付ける	目標	1	1	1	年度
		実績	1	0		
		達成率	100.0%	0.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

研修生を募集、説明会を開催する。
面接により研修生を決定、受け入れ農家を調整する。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

研修開始する。
(研修受け入れ農家より直接研修を受け入れる形で行う。)

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

研修を通して農業経営のノウハウや技術を学ぶ。
農家とのつながりができ、就農に向けた協力者が期待できる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

農業外からの新規参入を支援し、農業の担い手を確保できる。

行政のコントロール要素

大

小

成果の指標

大

小

外的な要因

大

小

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	市内産農畜産物6次産業化推進事業	所管課名	農林水産局	農林部	農業振興課
事業開始年度	平成24年度	基本	策コード	主 6-4-1	再 5-1-2
根拠法令	なし	分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
行政計画上の位置づけ	なし	施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 学校給食用に生産した玉ねぎの規格外品について、有効利用を図るため加工品として開発を図った。(22年度農商工連携推進事業として開始、26年度事業名変更)	事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
【事業概要】		施策成果指標			

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 農業者 中小企業経営者	対象をどのような状態にしたいのか 多様な経営体系による所得の向上

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

- ・福岡市6次産業化推進プロジェクト会議(福岡市・市内JAで構成)への負担金
- ・市内で生産される農畜産物を原料とした新商品の研究・開発及び販路拡大に取り組む事業について、試作品材料の提供、イベント等での販売促進活動加工機械の補助など支援を行った。

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	654	1,037	2,392
	歳入 特定財源	0	0	0
	歳入 一般財源	654	1,037	2,392

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	新商品の開発に取り組む事業者等の数	目標	2	2	2	年度
		実績	2	4		
		達成率	100.0%	200.0%		
成果の指標	販売された開発商品数	目標	15	17	19	年度
		実績	15	17		
		達成率	100.0%	100.0%		

ロジックモデル作成用のテーブル
最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・事業の周知を図る。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・農業者、中小企業者が加工品開発等の事業を実施する。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・農産物に手を加えたことにより付加価値が高まり、生産者、中小企業経営者の所得が向上する。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・農業振興に寄与する。
- ・市内産農畜産物の地産地消や農産物ブランド化が実現する。

行政のコントロール要素

外的な要因

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 新規

事業名	福岡産花き海外プロモーション事業	所管課名	農林水産局	農林部	農業振興課
事業開始年度	平成26年度	基本計画	策	主	6-4-1
根拠法令	なし	分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
行政計画上の位置づけ	なし	施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に花きの需要が減少し価格が低迷する中で市内花き農家の経営安定を図るため、販路拡大、ブランド化の一つの方策として県花き農協より事業提案があったもの。	事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
【事業概要】		施策成果指標			

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 農業者	対象をどのような状態にしたいのか 販路拡大、需要拡大による所得の向上

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

(1)海外需要調査
・課題を整理するとともに、輸出に適した国・地域や有効なプロモーションの方法を検討するためにモニタリング・マーケティング調査を行う。

(2)プロモーション活動
・調査結果をもとに、海外適地(香港を想定)において出展等を行い、現地消費者等に直接製品の良さをPRする。

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計		4,416	2,700
	歳入 特定財源		0	0
	一般財源		4,416	2,700

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	海外プロモーションの実施	目標	1	2	年度
		実績	1		
		達成率	100.0%		
		目標			年度
		実績			
		達成率			
成果の指標	プロモーションによる受注件数	目標		1	年度
		実績			
		達成率			
		目標			年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル
最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
・海外において花きのプロモーション活動を行う。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
・市内産花きの認知度が向上し、需要が高まる。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
・海外輸出により販路が拡大し、農業者の所得が向上する。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
・農業振興に寄与する。
・市内産花きのブランド化が実現する。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 新規

事業名	水産業ブランド創出事業	所管課名	農林水産局	水産部	水産振興課
事業開始年度	平成26年度	基本	施策コード	主 6-4-1	再 5-1-2
根拠法令	なし	分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
行政計画上の位置づけ	なし	施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 市内水産業は、漁業収入の減少や後継者不足等を背景に厳しい状況が続いており、水産物のブランド化や国内外への販路開拓等により水産業の魅力を生み出す必要があるため。	事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
【事業概要】		施策成果指標			

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 福岡市漁業協同組合	対象をどのような状態にしたいのか 水産業生産者が、一次産品とその加工品、さらには付加されたサービスの企画・生産・加工・サービス提供を進め、販路拡大とブランド化をはかることで、生産者の所得向上と後継者不足の改善を目指す。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

- 実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む
- マーケティング拠点施設の整備
 - ・福岡市一次産品ブランド化推進協議会を立ち上げ、福岡市漁協のマーケティング拠点施設のオープンに向けて協議をおこなった。
 - ・11月19日 マーケティング機能を持った漁協直営レストランがオープンした。
 - 販路拡大へ向けた取組
 - ・香港・台湾の飲食店で唐泊恵比須カキのPR活動を実施した。
 - ・11月開設した拠点施設を活用して、ジェトロ主催の商談会を開催したほか、海外有名シェフやオーナーを養殖施設に招聘するなど行った。
 - 養殖新技術の取得、確立
 - ・カキのシングルシード養殖新技術推進事業を実施した。
 - ・アサリ種苗の洋上での試験養殖を開始した。

年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
歳出合計		23,461	8,000
歳入		0	0
特定財源			
一般財源		23,461	8,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	海外シェフやバイヤーの招へいと直接商談回数	目標	2	年間1~2回招へい予定	28年度
		実績	3		
		達成率	150.0%		
		目標			年度
成果の指標	水産物の輸出量(マカキ・イワガキ)(単位:ト)	目標	1.0	唐泊恵比須かきの海外出荷量を1.4トンから2トンに拡大	年度
		実績	1.4		
		達成率	140.0%		
		目標			年度

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・マーケティング拠点施設を整備する。
- ・上記施設を活用した海外シェフやバイヤーとの商談会を開催する。
- ・特産品、加工品の企画及び水産物ブランド化のためのPRを行う。
- ・シングルシード方式による岩牡蠣の試験養殖
- ・アサリ貝の洋上での試験養殖を行う。

行政のコントロール要素

成果の指標

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・マーケティング拠点施設整備により、水産物やその加工品をPRできる。
- ・シェフやバイヤーからの注文が増える。
- ・シングルシード岩牡蠣の生産・販売が可能となる。
- ・新たな養殖技術の確立により、アサリの生産量・販売量が増加する。

小

成果の指標

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・水産物の輸出量や新規顧客が増加。
- ・牡蠣の周年出荷ができる。
- ・養殖技術確立により計画生産が可能となり、安定収入につながることも、海外流通量が拡大する。
- ・各支所ごとの特色を生かした販売戦略を展開できる。

小

成果の指標

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・国内外での福岡市水産物の知名度アップと需要拡大
- ・水産業生産者の所得向上
- ・事業としての水産業の魅力が向上し、後継者不足が改善

外的な要因

大

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	鮮魚市場活性化事業(東アジア流通促進事業)
事業開始年度	平成20年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	なし
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 鮮魚市場では、韓国・中国など東アジアに近く、生鮮水産物も多数入荷しているため、平成20年度に市場関係者で「福岡市鮮魚市場・東アジア流通促進協議会」を組織し、平成21年には釜山広域市国際水産物卸売市場と姉妹市場を締結し、両市場関係者による取引の実現に向けて交流事業等に取り組み、市場の活性化を図る。

所管課名	農林水産局	中央卸売市場	鮮魚市場
基本計画	策コード	主 6-4-2	再
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
事業群	市場機能の強化		
施策成果指標			

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 市場関係者、釜山広域市国際水産物卸売市場	対象をどのような状態にしたいのか 韓国との水産貿易の円滑化・効率化を図るとともに、姉妹市場を締結した釜山広域市国際水産物卸売市場との交流などに取り組む。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

○市場関係者と開設者の福岡市で「福岡市鮮魚市場・東アジア流通促進協議会」を組織し、東アジアの中でも特に韓国との水産貿易を拡大するため、「福岡・釜山姉妹市場交流事業」に取り組んでおり、日韓水産貿易の課題等について、平成26年12月に釜山広域市から福岡へ、平成27年3月に福岡から釜山広域市へそれぞれ訪問し、両市場の情報交換等の協議を行った。

・福岡・釜山姉妹市場関係者協議 2回

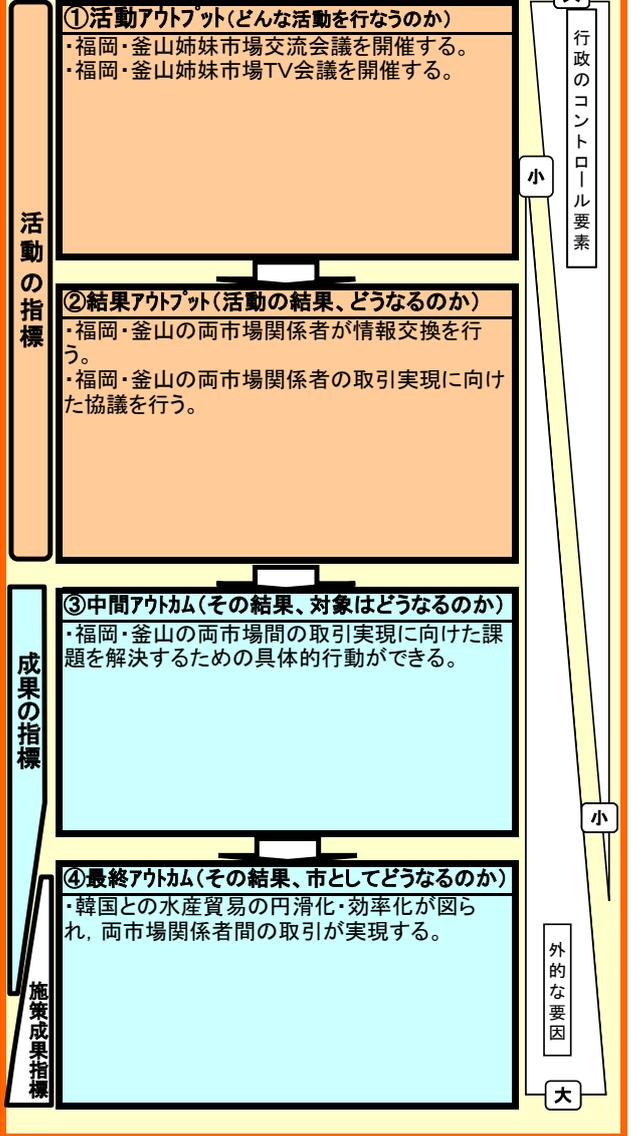
事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	360	0	360
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	360	0	360

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	福岡・釜山姉妹市場関係者協議	目標	1	1	2	年度
		実績	0	2		
		達成率	0.0%	200.0%		
		目標				年度
成果の指標	釜山姉妹市場との水産貿易の実現	目標	取引の実現	取引の実現	取引の実現	年度
		実績	実現せず	実現せず		
		達成率	0.0%	0.0%		
		目標				年度

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	鮮魚市場活性化事業(市場開放事業)	所管課名	農林水産局 中央卸売市場	鮮魚市場
事業開始年度	平成21年度	基本	施策コード 主 6-4-2 再	
根拠法令	なし	分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている	
行政計画上の位置づけ	なし	施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 鮮魚市場では、市場外流通や魚離れが進行するなどにより年々取扱数量が減少していることから、市場の魅力を外内に発信することにより、魚食普及の推進及び水産物の消費拡大を図る必要があるもの。	事業群	市場機能の強化	
【事業概要】		施策成果指標		

対象	目的
誰(何を対象として行なうのか) 一般市民(特に魚離れが進んでいる世代(子ども, 若い世代))	対象をどのような状態にしたいのか 魚離れが進んでいる世代に対し、市民感謝デーを通じて、魚を身近に感じてもらうことで、魚食普及の推進及び水産物の消費拡大に結びつけたい。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

鮮魚市場関係者と開設者(福岡市)で構成する魚食普及を目的とした団体「福岡魚食普及推進協議会」主催により、市民に鮮魚市場を直に見てもらい、魚食への関心を高めて、魚食普及の推進及び水産物の消費拡大を図るため、毎月第2土曜日に市場の一部(仲卸売場棟)を開放する市場開放事業(市民感謝デー)等に取り組んだ。
平成26年度実績 毎月第2土曜日(年12回開催) 来場者数 119,000人

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	13,579	13,546	12,732
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	13,579	13,546	12,732

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	市民感謝デー開催日数	目標	12	12	12	年度
		実績	12	12		
		達成率	100.0%	100.0%		
成果の指標	市民感謝デー来場者数	目標	120,000	120,000	120,000	年度
		実績	118,000	119,000		
		達成率	98.3%	99.2%		
成果の指標	来場者の魚食頻度の割合(週に3回以上)	目標	70.0%	71.0%	72.0%	年度
		実績	68.9%	63.4%		
		達成率	98.4%	89.3%		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 市民感謝デーを開催する。(年12回)
- 市民感謝デーの周知を図る。(チラシ、ホームページ等の媒体により市民感謝デー及び魚食普及についての広報を行う。)
- 長浜鮮魚市場ホームページの開設。
- 長浜鮮魚市場直送店PR事業を実施する。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 市民感謝デーに市民が来場する。
- 市民が長浜鮮魚市場ホームページを見て魚食に関心を持つ。
- 市民が長浜鮮魚市場直送店(登録店)に関心を持ち、利用する。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 市民感謝デーを通じて鮮魚市場を身近に感じ、魚食への関心を高める。
- 市民感謝デーを契機として、水産物の消費拡大につながる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- 魚食普及・水産物の消費が拡大する。

行政のコントロール要素

大

小

小

大

外的な要因

活動の指標

成果の指標

施策成果指標